

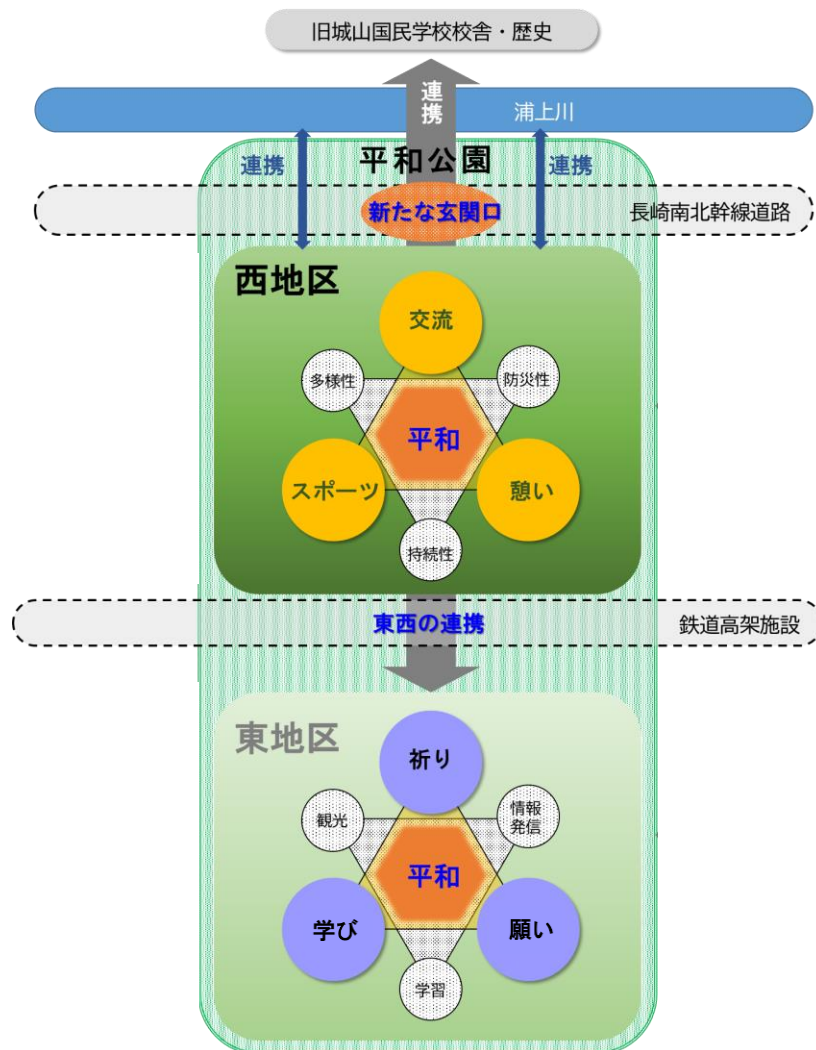
第3章 平和公園（西地区）の方向性

3-1. 上位計画・関連計画

●第五次総合計画	●都市計画マスタープラン
●長崎都心まちづくり構想	●立地適正化計画
●景観計画	●歴史的風致維持向上計画
●バリアフリーマスタープラン	●公共施設適正配置基準
●スポーツ推進計画	●駐車場整備計画

- 都市公園としての機能向上（多様化するニーズへの対応、景観性の向上、ユニバーサルデザイン化など）
- より魅力的な空間の創出（交流機会を創出するためのスポーツの場、広場空間の確保、緑化の推進、浦上川との連携など）

3-2. 空間形成の考え方



3-3. 再整備にあたっての課題

課題① 平和の継承・発信

- これまで培ってきた平和公園の趣旨を尊重しつつ、東地区との適切な機能分担のもと、未来に向け平和の尊さが感じられる**長崎市のシンボルとなる公園**であり続ける必要がある。

課題② スポーツ施設の再配置と多様なニーズへの対応

- 限られた敷地の中に従前と同じ施設を配置できないため、利用実態や代替地確保の可能性などを踏まえ、**スポーツ施設を再配置**する必要がある。
- 多様化するスポーツニーズに対応**するための環境を整える必要がある。

課題③ オープンスペースの維持・確保

- 市街地に位置する利便性が高い貴重な土地であるため、市民に身近で**日常的な憩いの空間**や**災害時等の緊急避難場所**として、さらには、グリーンインフラの視点からも**オープンスペースや緑を維持・確保**する必要がある。

課題④ 新たな玄関口としての機能強化

- （仮称）松山ICの設置により、県北からの来訪者を迎え入れるための、新たな**玄関口としての機能を強化**する必要がある。

課題⑤ 周辺施設等との連携や調和した景観の形成

- 公園内はもとより、周辺に位置する**施設等との連携により相乗効果を生み出す空間**とする必要がある。
- 平和公園から稲佐山への軸線や東西地区を結ぶ歩行者動線を尊重しつつ、周辺市街地等と調和した**都市景観を形成**する必要がある。
- 南北幹線道路は、公園に溶け込み違和感を感じられないような設えにすることを求めている必要がある。

課題⑥ 持続可能な施設運営

- 将来にわたり持続的に維持していくため、**官民連携手法の導入、ICTの活用**などにより、効率的で効果的な施設整備と、持続可能な管理運営を行っていく必要がある。

3-4. 平和公園（西地区）の基本方針

平和公園再整備基本計画（平成6年3月）

全体：『平和の森』—平和を願い、実践していく交流公園—

- ①公園全体は、広々とした空間そして豊かな緑陰と、集客力のある施設を備えた、長崎市及び中央地区のシンボリックな公園とする。
- ②東地区は、平和を祈念する公園として、その機能を強化するとともに風致に配慮した『街の緑』となる公園とする。
- ③西地区は、スポーツ活動のみではなく、多様なレクリエーション活動や、水辺の利用に対応できる市民の「いこいの場」となる公園とする。
- ④平和公園を中心に、周辺の公園、レクリエーション施設、そして原爆のメモリアル施設とのネットワークを図る。

西地区：『市民交流、自然交流のゾーン』

- 平和を希求する公園の未来性を利用形態を通して表現する。
- 「平和交流」を「レクリエーション」と「自然」によって展開する。

東地区：『平和を祈り、願うゾーン』

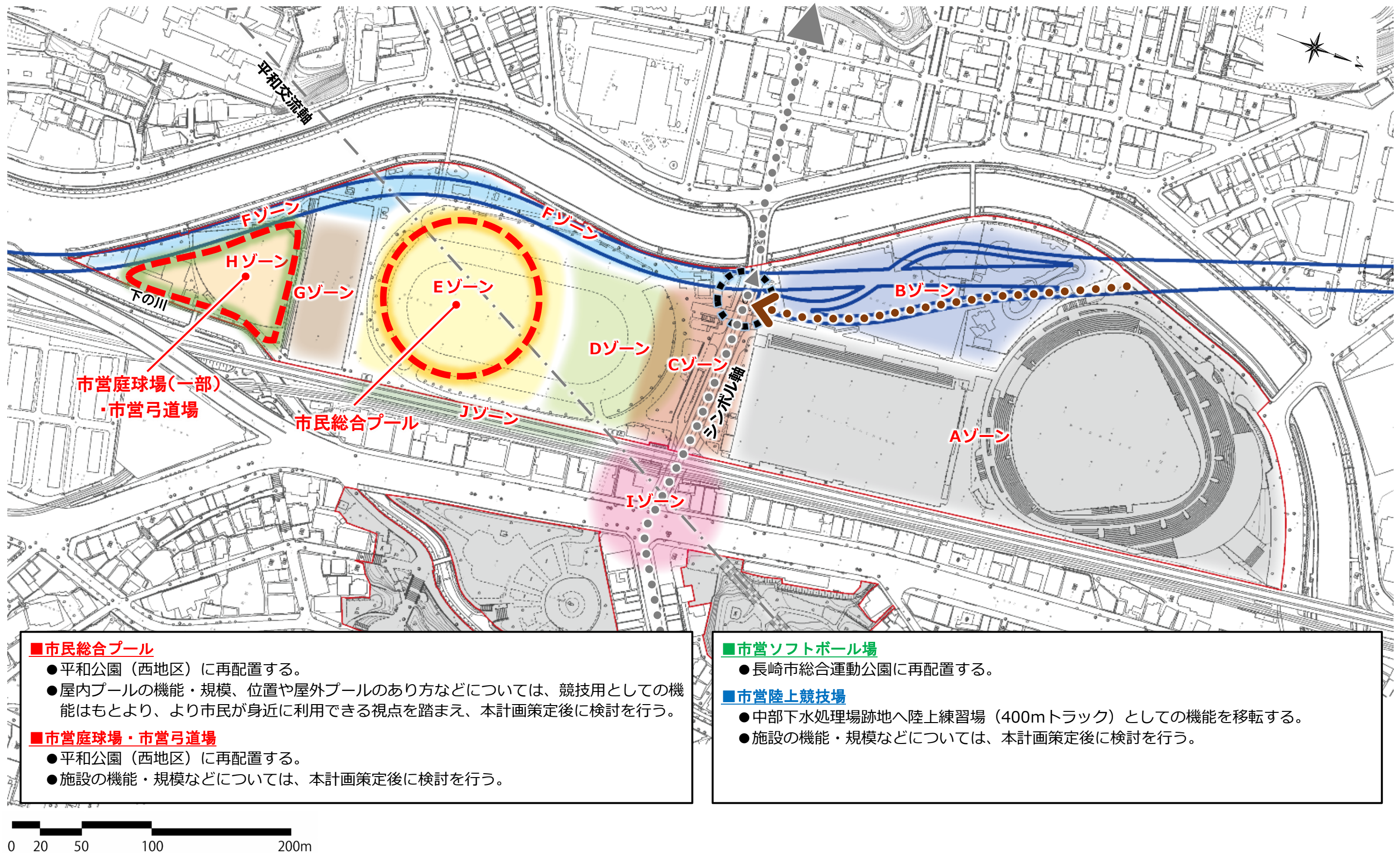
- 平和公園としてのメモリアル性をより象徴的な空間として表現する。
- 東地区内の各ゾーンの象徴機能の明確化と一体的な地区としての再編、強化を図る。

西地区の基本方針

『平和を感じ、交流するゾーン』

- ①**多様なニーズに応じた、平和を実感するスポーツ環境の創出**
 - 平和公園開設当初からのスポーツゾーンのコンセプトを引き続き維持し、多様なニーズに応じたスポーツやイベント等を通じてゆとり、平和を実感するスポーツ環境を創出する。
- ②**市民に身近で、平和の尊さを感じられる憩いの空間の形成**
 - 市民が日常的に集い・安らげる居心地の良い空間、水や緑とふれあえる空間、安全・安心を支える防災力を備えた空間、景観的に調和がとれた空間など、日々の生活の中で平和の尊さを感じられる空間を形成する。
- ③**長崎の新たな玄関口としての機能強化**
 - 長崎南北幹線道路の（仮称）松山インターチェンジの整備に伴い、インターチェンジに接続する市道松山町線の車両交通量の増加が見込まれることから、交通処理機能の確保や周辺の公共駐車場への誘導などにより、車の来訪者を迎え入れる機能を強化する。
- ④**平和を伝える機能向上の動線形成**
 - 西地区における地域の歴史を伝える場をつくり、浦上川（水辺空間）、東地区、旧城山国民学校校舎につなげる動線を形成する。
- ⑤**効率的で効果的な施設整備と管理運営**
 - 官民連携手法やICTの活用などにより、効率的で効果的な施設整備と、市民参加を促しながら、将来にわたり持続可能な管理運営を行う。

3-5. スポーツ施設の再配置に関する方針



■市民総合プール

- 平和公園（西地区）に再配置する。
- 屋内プールの機能・規模、位置や屋外プールのあり方などについては、競技用としての機能はもとより、より市民が身近に利用できる視点を踏まえ、本計画策定後に検討を行う。

■市営庭球場・市営弓道場

- 平和公園（西地区）に再配置する。
- 施設の機能・規模などについては、本計画策定後に検討を行う。

■市営ソフトボール場

- 長崎市総合運動公園に再配置する。

■市営陸上競技場

- 中部下水処理場跡地へ陸上練習場（400mトラック）としての機能を移転する。
- 施設の機能・規模などについては、本計画策定後に検討を行う。